

# 男女の愛情関係のスタイル\*<sup>1</sup>

## —クラスタ分析—

川名好裕\*<sup>2</sup>

## Patterns of Love Relationships between Males and Females : Cluster Analysis

KAWANA Yoshihiro

### Abstract

Based on the data collected from the Internet survey (survey participants are 968 men and 967 women aged 20 to 49 years from samples from all over Japan), Cluster analysis was conducted for mental lover relationship, sexual lover relationship, marital relationship, separately for males and females.

As results of the analysis, the following findings were obtained. Clusters of mental lover relationships were mutual love type, average type, jealous type, cold relation type in men. In women, they were passionate type, average type, flirty type, and friend type. Clusters of sexual lover relationships were mutual love type, average type, jealous type, cold relation type in men. In women, they were mutual love type, sexual satisfaction type, friend type, and cold relation type. Clusters of marriage relationships in males were mutual love type, average type, jealous type, cold relation type. In women, they were mutual love type, average type, sexless type, and cold relation type.

Overall, the love relationship between men and women is roughly classified into four categories: "Mutual-love couple", "Couple with love and fighting", "Couples that are cold but have continued relationships", "Couples almost ending"

Love relationships between men and women are more complicated than non-sexual ordinary relationships, as factors of sexual relations and commitment are linked other than similarities of opinions and attitudes.

[Keywords] male and female love relations, relationship stage, cluster analysis

### 要約

インターネット調査（調査参加者は、日本全国からのサンプルで968名の男性と967名の女性。年齢20歳～49歳）で集積したデータをもとに、精神的恋人関係、性的恋人関係、結婚関係について男女別々にクラスタ分析を行った。

分析の結果、以下のような知見が得られた。精神的恋人関係のクラスタは、男性では、相思相愛型、平均型、嫉妬型、冷めた関係型であった。女性では、情熱型、平均型、浮気型、友達型であった。性的恋人関係のクラスタは、男性では相思相愛型、平均型、嫉妬型、冷めた関係型であった。女性では、相思相愛型、性的満足型、友達型、冷めた関係型であった。結婚関係のクラスタは、男性では、相思相愛型夫婦、平均型夫婦、嫉妬浮気型夫婦、冷めた夫婦であった。女性では、相思相愛夫婦、平均型夫婦、セックスレス夫婦、冷めた夫婦であった。

全般的に男女の愛情関係は、「相思相愛カップル」、「仲が良いのに喧嘩するカップル」、「冷えているが関係が続いているカップル」、「別れが予感されるカップル」の4種類におおよそ分類されるようである。

男女関係は、性的関係やコミットメントという意見態度の類似性以外の要因でも結びついているので関係は非性

---

\* 1 この研究は、2011年～2013年度立正大学心理学研究所の共同研究助成のもとで企画されたものの一部である。立正大学心理学研究所の助成に感謝の意を表したい。

\* 2 立正大学心理学部教授

的な通常の関係より複雑である。

キーワード：男女の愛情関係、関係段階、クラスタ分析

## 問題と目的

### 先行研究

筆者らの男女間の愛情関係の研究は、恋愛の進展段階の研究からスタートした。川名・齊藤（2009）で「恋愛の進展段階」、および川名・齊藤（2010）で「恋愛の進展段階（2）」の研究を行った。川名らはこの2つの研究を通して、恋愛の進展段階については、「友達段階」、「片思い段階」、「精神的恋人段階」、「性的恋人段階」の4段階を設定した。

また、男女の恋愛の進展に影響を及ぼす重要要因である言語や行動の交流内容に関しては、松井（1993, 2000）の研究を参考に、「コミュニケーション」、「共行動」、「身体接触」、「いさかい」という交流内容の4つの側面を男女関係の交流内容として設定した。

また、男女を結びつける心理的魅力要因については、Sternberg（1986）の「愛情の三角理論」で展開された3つの因子を参考に、男女を結びつける愛情の三角理論の「親密性」、「情熱性」、「コミットメント」に加えて「性欲性」という4つの男女を結びつける心理的魅力要因を設定した。Sternberg（1986）の「愛情の三角理論」では、性欲性は情熱性に含まれるものとして扱われているが、「恋心」と「性欲」とは、違う性質を示す場面も多いので、別の概念として扱うことにした。交流内容の4成分と男女を結びつける心理的魅力要因の4成分の合計8つの側面に関して、男女関係の進展段階を比較検討した。

しかし、これらの研究のサンプルは、20歳前後の大学生の男女という小規模サンプルで、さまざまな結論の妥当性の検証には、より年齢層が広く、かつ大サンプルも必要であろう。また、学生サンプルであると、男女関係の進展も婚約以前ということになるので、数少ない婚約関係段階のサンプル、さらに結婚後の夫婦関係のサンプルも必要で大規模調査が望まれた。

そこで川名（2014）は、日本全国の20代～40代の男女それぞれ1000人弱の大サンプルでインターネット調査を実施した。友人、片思い、精神的恋人（プラトニック関係）、性的恋人、婚約者、配偶者という6つのすべての関係進展段階のサンプルを集めた。そこでデータ分析のうち、相互作用側面（コミュニケーション、共行動、身体接触、いさかいの側面）の結果を報告した。これらの相互作用側面を男女比較と20代～40代の年代間で比較した。分析の結果、男性は女性よりも進展段階の初期の段階でコミュニケーションおよび共行動において活発である一方、女性は進展段階の後半、とくに婚約段階以後において相互作用において活発であった。身体接触傾向に関しては、男性は女性よりすべての進展段階でより活発であった。世代間比較では、20代のカップルは、30代や40代のカップルより、コミュニケーション、共行動、身体接触のすべてでより活発であることが明らかにされた。他方、意見不一致などの「いさかい」は、進展段階が進むほど多くなり、夫婦関係で頂点に達することが分かった。男性の浮気傾向は、すべての進展段階で女性の浮気傾向を上回っていた。特に女性は、結婚後は急激に浮気傾向がなくなること、男性の嫉妬傾向は女性の嫉妬傾向より高かった。男性は婚約後から夫婦関係にかけて嫉妬傾向が特に高いことが分かった。

川名（2016）では、男女を結び付ける心理的魅力要因（親密性、情熱性、性欲性、コミットメント）について分析をした。これらの心理的魅力要因を性別、関係進展段階、年代について比較した。その結果、男性は女性より「性欲性」がすべての関係段階で上回ったのに対して、女性は相互の愛情的関係が形成された後では、男性以上に「親密性」が高いことが分かった。また、「情熱性」に関しては、男女は片思い段階以後から結婚以前まで同じ程度に高かったが、女性は結婚後、急激に情熱性が下降するのに対して、男性は結婚後も女性より情熱性は維持されていた。男性は、「性欲性」と「情熱性」において女性より上回り、女性は男性との関係が確定する婚約以後、結婚期間を通して「親密性」において、男性を上回っていることが分かった。男性は男女の関係段階の初期から性的恋人になるまで、積極的に相手の女性にアプローチするのに対して、女性は男女の関係段階の最後の段階の婚約、結婚段階で相手への「コミットメント」が大きくなることが分かった。

川名（2017）は、男女間の「交流内容」（コミュニケーション、共行動、身体接触）と、「心理的魅力要因」（親密性、

情熱性、性欲性、コミットメント) とが、どのような関係にあるかを特に男女比較で比較検討した。その結果、「親密性」に影響を及ぼすのは、男性においては共行動、身体接触、コミュニケーションという関係順位であり、女性においてはコミュニケーション、共行動、身体接触という順序であった。男性においては身体接触が、女性においては、コミュニケーションが親密性の構築に影響を及ぼしているようである。「情熱性」は、身体接触、コミュニケーションとの関係が深かった。「性欲性」と関係の深い交流内容は、男女とも身体接触のみであった。「コミットメント」との関係では、男女とも身体接触が最も大きな影響力があり、続いて共行動、コミュニケーションという関係順序であった。

## 本研究の目的

本研究は、川名 (2014)、川名 (2016)、川名 (2017) の分析に引き続いて、男女間の愛情関係のパターンの分析である。恋人関係、結婚関係において相思相愛で関係のよい場合もあるが、仲がよいように見えて喧嘩もよくする場合、いさかい事が多く今にも別れそうなカップルや冷たい関係なのに別れない関係など、日常の経験から様々な恋人カップル、結婚カップルが観察されている。本研究では、性的な関係のない精神的恋人関係、性的な関係ができた恋人関係、結婚関係について、男性と女性とでは認識の違いもあると思われるので、男女別々にそれらの関係での関係パターンがどのようなものであるかを探るために、統計のクラスタ分析を使用して検討したいと思う。

## 方 法

### 被調査者と調査時期

インターネット調査会社の登録者サンプルから、日本全国の20～49歳の男女にオンライン・アンケート調査を依頼した。対象調査実施期間は2011年7月であった。有効データ数は、合計1935人(女性967人、男性968人)で、そのデータ構成は、20代～40代(20歳～49歳)の男女を知合い・友人、片思いの相手、プラトニックな恋人、性的関係のある恋人、婚約者、配偶者(結婚相手)のそれぞれのカテゴリーに属する被調査者について、データ数を収集した。

### 調査内容

インターネット調査で使用されたアンケート項目を Table 1 に示す。

質問は全部で、77問で、本人の恋人など最も親しい異性を思いうかべてその相手について諸質問に回答してもらった。

質問群の構成は以下のとおりである。

- |  |           |
|--|-----------|
| ① 比較項目の質問  | (問1～問6)   |
| 相手の年齢、相手との関係、付き合い(知り合い)期間、知り合ったきっかけ、現在までに付き合った異性の数などである。 |           |
| ② 恋愛タイプについての質問   | (問7～問31)  |
| ③ コミュニケーションについての質問                                       | (問32～問36) |
| ④ 共行動についての質問   | (問37～問41) |
| ⑤ 身体接触についての質問  | (問42～問46) |
| ⑥ 情熱性についての質問   | (問47～問51) |
| ⑦ 親密性についての質問   | (問52～問56) |
| ⑧ 性欲性についての質問   | (問57～問61) |
| ⑨ コミットメントについての質問   | (問62～問66) |
| ⑩ いさかいについての質問  | (問67～問69) |
| ⑪ 嫉妬についての質問  | (問70～問73) |
| ⑫ 浮気についての質問  | (問74～問77) |

なお、問7～問77については、全く当てはまらない(1点)から非常に当てはまる(7点)のリッカート尺度である。

Table 1. 本研究で用いられた調査項目

あなたの地位: 学生 会社員 フリーター 無職 年齢: 歳 性別: 男 女

これから、あなたの現在の恋人、もしくは、最も親しい異性(親兄弟を除く)について、うかがいます。  
その特定の人を心に思い描いて、以下の質問に答えて下さい。

問1 あなたは、1. 独身(未婚) 2. 独身(結婚歴あり) 3. 既婚

問2 その人の年齢は何歳ですか。 歳

問3 その人と、あなたはどのような関係ですか。 最も該当するものに○をつけて下さい。  
1. 知り合い・友人  
2. 片思いの相手  
3. 恋人(プラトニック(精神的)な関係)  
4. 恋人(相手と性的関係がある)  
5. 婚約者  
6. 配偶者(結婚相手) 結婚年数:( 年 ヶ月)

問4 その人とは何ヶ月、知り合っていますか(いましたか)? ( ヶ月)(年は月に換算して下さい)

問5 その人と、どのようにして知り合いましたか、最も該当するものに○をつけて下さい  
1. 学校のサークル 2. 友達への紹介 3. 同じ職場・バイト先 4. 幼なじみ  
5. 友達の元彼(女) 6. 合コン 7. 同じ学校 8. その他( )

問6 あなたは今まで何人の異性と付き合ってきましたか。(約 人)  
以下の各質問について、あなたの場合に最も当てはまる数字に○をつけて下さい

	全く当てはまらない	当てはまらない	やや当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	当てはまる	非常に当てはまる
問7	1	2	3	4	5	6	7
問8	1	2	3	4	5	6	7
問9	1	2	3	4	5	6	7
問10	1	2	3	4	5	6	7
問11	1	2	3	4	5	6	7
問12	1	2	3	4	5	6	7
問13	1	2	3	4	5	6	7
問14	1	2	3	4	5	6	7
問15	1	2	3	4	5	6	7
問16	1	2	3	4	5	6	7
問17	1	2	3	4	5	6	7
問18	1	2	3	4	5	6	7
問19	1	2	3	4	5	6	7
問20	1	2	3	4	5	6	7
問21	1	2	3	4	5	6	7
問22	1	2	3	4	5	6	7
問23	1	2	3	4	5	6	7
問24	1	2	3	4	5	6	7
問25	1	2	3	4	5	6	7
問26	1	2	3	4	5	6	7
問27	1	2	3	4	5	6	7
問28	1	2	3	4	5	6	7
問29	1	2	3	4	5	6	7
問30	1	2	3	4	5	6	7
問31	1	2	3	4	5	6	7
問32	1	2	3	4	5	6	7
問33	1	2	3	4	5	6	7
問34	1	2	3	4	5	6	7
問35	1	2	3	4	5	6	7
問36	1	2	3	4	5	6	7
問37	1	2	3	4	5	6	7
問38	1	2	3	4	5	6	7
問39	1	2	3	4	5	6	7
問40	1	2	3	4	5	6	7
問41	1	2	3	4	5	6	7
問42	1	2	3	4	5	6	7
問43	1	2	3	4	5	6	7
問44	1	2	3	4	5	6	7
問45	1	2	3	4	5	6	7
問46	1	2	3	4	5	6	7
問47	1	2	3	4	5	6	7
問48	1	2	3	4	5	6	7
問49	1	2	3	4	5	6	7
問50	1	2	3	4	5	6	7
問51	1	2	3	4	5	6	7
問52	1	2	3	4	5	6	7
問53	1	2	3	4	5	6	7
問54	1	2	3	4	5	6	7
問55	1	2	3	4	5	6	7
問56	1	2	3	4	5	6	7
問57	1	2	3	4	5	6	7
問58	1	2	3	4	5	6	7
問59	1	2	3	4	5	6	7
問60	1	2	3	4	5	6	7
問61	1	2	3	4	5	6	7
問62	1	2	3	4	5	6	7
問63	1	2	3	4	5	6	7
問64	1	2	3	4	5	6	7
問65	1	2	3	4	5	6	7
問66	1	2	3	4	5	6	7
問67	1	2	3	4	5	6	7
問68	1	2	3	4	5	6	7
問69	1	2	3	4	5	6	7
問70	1	2	3	4	5	6	7
問71	1	2	3	4	5	6	7
問72	1	2	3	4	5	6	7
問73	1	2	3	4	5	6	7
問74	1	2	3	4	5	6	7
問75	1	2	3	4	5	6	7
問76	1	2	3	4	5	6	7
問77	1	2	3	4	5	6	7

## 結果と考察

### ポジティブ交流内容成分の分類

男女関係のポジティブな交流側面については、先行研究から次の3つに分類された。質問調査での問番号との対応は以下のとおりである。

- ① コミュニケーションについての質問 (問32～問36)
- ② 共行動についての質問 (問37～問41)
- ③ 身体接触についての質問 (問42～問46)

#### ① コミュニケーションの質問項目

- 問32 よく、メールで相手と連絡を取り合っている
- 問33 些細なことで、相手にメールをしたりする
- 問34 電話でよく、話をする
- 問35 寂しいときや、ひまなとき相手に電話したりする
- 問36 会ったときに相手といろいろなことについて話をするのが楽しみだ

#### ② 共行動についての質問項目

- 問37 相手とデートをよくする
- 問38 一緒に買い物に行く
- 問39 相手の住まいをよく訪問する
- 問40 一緒に旅行に行ったりする
- 問41 一緒に行楽やイベントに行ったりする

#### ③ 身体接触についての質問項目

- 問42 よく相手と手をつないだり、腕を組んだりする
- 問43 よく相手の肩や腰に手をまわす
- 問44 相手の身体にさわりたい
- 問45 相手を抱きしめたりする
- 問46 相手とよくキスをしたりする

### ネガティブ交流要因

次に男女関係において二人の関係に齟齬をもたらし関係を悪化させることに影響するネガティブ交流内容としては、意見不一致、嫉妬、浮気などが考えられる。

#### ④ 「意見不一致」の質問項目

- 問67 相手と意見が合わないことがよくある

#### ⑤ 「いさかい」の質問項目

- 問68 相手と考え方の違いで喧嘩をすることがある

⑥ 嫉妬に関する質問項目

- 問70 相手が他の異性と付き合っていないかどうか心配だ
- 問71 相手の携帯電話のメールをこっそりチェックすることがある
- 問72 相手に近づく同性ライバルには、徹底的に意地悪をする

⑦ 浮気に関する調査項目

- 問74 複数の魅力的な異性に関心がいく
- 問75 現在の相手に不満足だから、他の異性とも付き合ってみたい
- 問76 チャンスがあれば、他の異性にもアプローチする
- 問77 相手は、自分以外の異性と付き合っているようだ

心理的魅力成分の分類

⑧ 性欲性についての質問項目

- 問57 相手といると性的興奮をする
- 問58 性的接触を自分から求めることがある
- 問59 相手との性的接触がよくある
- 問60 相手との性的接触をめんどうに感じる
- 問61 相手から性的接触を求められるとうんざりする

⑨ 情熱性についての質問項目

- 問47 相手は自分にとって非常に魅力的な人だ
- 問48 相手について空想にふけることがある
- 問49 相手を見るだけでドキドキしてしまう
- 問50 ロマンチックな映画を観たり本を読んだりするとつい相手のことを考えてしまう
- 問51 ふと気が付くと相手のことを考えていることがよくある

⑩ 親密性の質問項目

- 問52 相手との関係は居心地の良いものである
- 問53 自分は必要な時には相手を頼ることができる
- 問54 相手とはうまくコミュニケーションがとれている
- 問55 自分と相手の関係は温かいものである
- 問56 相手は必要な時には自分を頼ってくる

⑪ コミットメントについての質問項目

- 問62 自分にとって相手との関係よりも大切なものなど他にない
- 問63 自分と相手との関わりは揺ぎないものである
- 問64 相手なしの生活など考えられない
- 問65 相手との関わりは強いもので、何ものにも邪魔されたくない
- 問66 相手との関係を終わらせることなど自分には考えられない

これらの11の質問項目群についての群ごとにデータに主成分分析を行い、それぞれの第一主成分の主成分得点とした。

クラスタ分析

以上の男女のポジティブな交流内容（コミュニケーション、共行動、身体接触）と、男女のネガティブな交流内容（意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気）、さらに男女の心理的魅力（性欲性、情熱性、親密性、コミットメント）の合計11個の主成分得点に関して、性別（男性・女性）×男女関係（精神的恋人関係、性的恋人関係、結婚関係）の関係ごとにクラスタ分析（非階層型、4クラスタ設定）を実施した。

以下クラスタ分析の結果であるが、記述の順序は、占めるパーセンテージの多い順とする。

グラフの各点はクラスタの中心（平均）を示す。

全体の平均が0である。

(1) 精神的恋人カップル（男性）のクラスタ分析

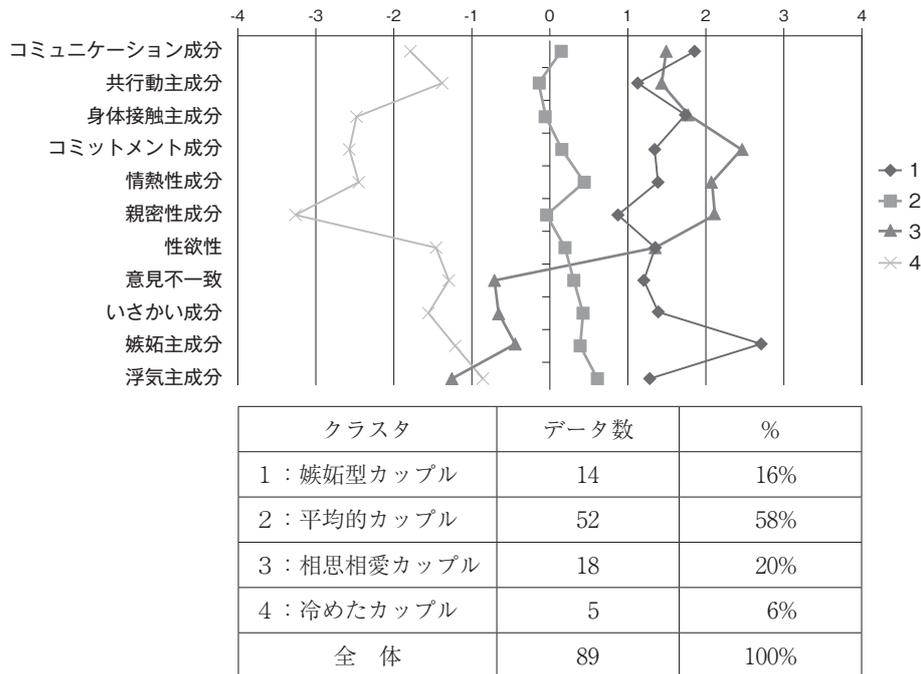


Fig. 1 精神的恋人関係（男性）

Fig. 1が男性データの精神的恋人カップル（性的関係のないプラトニックな関係）の4クラスタ分析の結果である。もっとも%の高いのは、クラスタ番号2の「平均的カップル」と名付けたクラスタで58%を占める。すべての主成分がクラスタ中心値の0に近いところにある。

2番目に%の多いのは、クラスタ3の「相思相愛カップル」と名付けたクラスタである。4クラスの中で、コミットメント、情熱性、親密性が最も高いので、相思相愛のカップルと考えることができる。交流内容では、コミュニケーション、共行動、身体接触とも最も高い値である。意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気も極めて低い。

クラスタ1は、「嫉妬型カップル」と名付けた16%を占める群である。「嫉妬主成分」が際立って高いのでこの名称にした。コミュニケーション、共行動、身体接触は「相思相愛カップル」と同じくらい、情熱性、親密性は、「相思相愛カップル」について2番目位に高い。性欲性は、「相思相愛カップル」と同じ位である。しかし、「相思相愛カップル」と違って、意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気の度合いが最も高い。いわゆる「痴話喧嘩」が多い群と考えられる。

相手の女性が浮気などをして、そこから嫉妬が生まれ、争いごとが多いのではないかとと思われる。

クラスタ4は、「冷めたカップル」と名付け、6%と極めて少数の群である。この群は、コミットメント、情熱性、親密性が最も低く、コミュニケーション、共行動、身体接触も4群中で最も低い。恋人解消する可能性が最も高い群と考えられる。

(2) 精神的恋人カップル（女性）のクラスタ分析

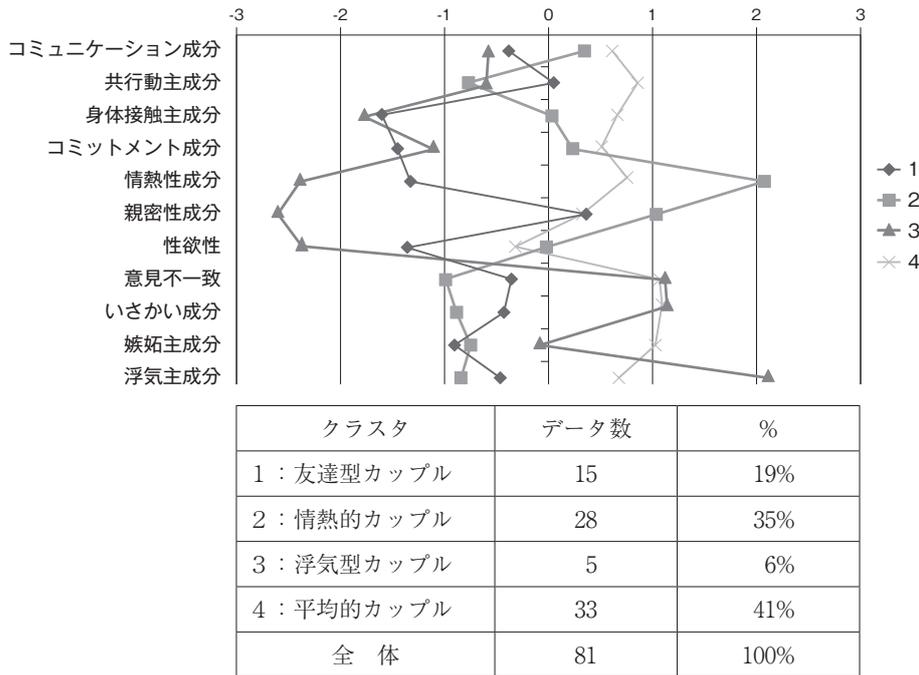


Fig. 2 精神的恋人関係（女性）

次に女性データの「精神的恋人関係」をクラスタ分析の結果を Fig. 2 に示す。最も多いのがクラスタ 4 の「平均的カップル」で全体の 41% を占める。交流内容のコミュニケーション、共行動、身体接触、コミットメントがある程度あり、情熱性、親密性も 2 番目に高い。しかし、意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気も高い。平均カップルでは、ポジティブ得点も高いが、ネガティブ要因得点も高いことは、注目すべきである。

次に多いのは、35% を占める「情熱的カップル」と名付けたクラスタ 2 である。情熱性が極めて高いので相手の男性への恋心が極めて高いと思われる。親密性も 4 クラスタの中で最も高い。意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気が最も低いことから、相手にベタ惚れの群と考えられる。文字どおり情熱的カップルである。相手とのコミュニケーションはあるが、共行動が少ないことから現実的な交流が少なく、相手に理想像を付与している段階かもしれない。フランスの作家のスタンダールの言う「結晶作用」段階と見ることができる。

3 番目に多いのは、クラスタ 1 の「友達カップル」で 19% を占める。親密性だけが高く、情熱性と性欲性が低いことから「友達カップル」と名付けた。意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気なども低いので、まだ知り合って、デートをするくらいの関係であろう。

もっとも少ないのはクラスタ 3 の「浮気型カップル」で、たった 6% である。浮気傾向が最も高く、意見不一致、いさかいも多い。相手に対する嫉妬はない。情熱性、親密性、性欲性とも最も低いので、文字どおり「浮気型」である。コミットメントも低いことから、相手の男性からの片思いカップルであろうと思われる。女性当人は、別の男性に興味があるのであろう。

(3) 性的恋人カップル（男性）のクラスタ分析

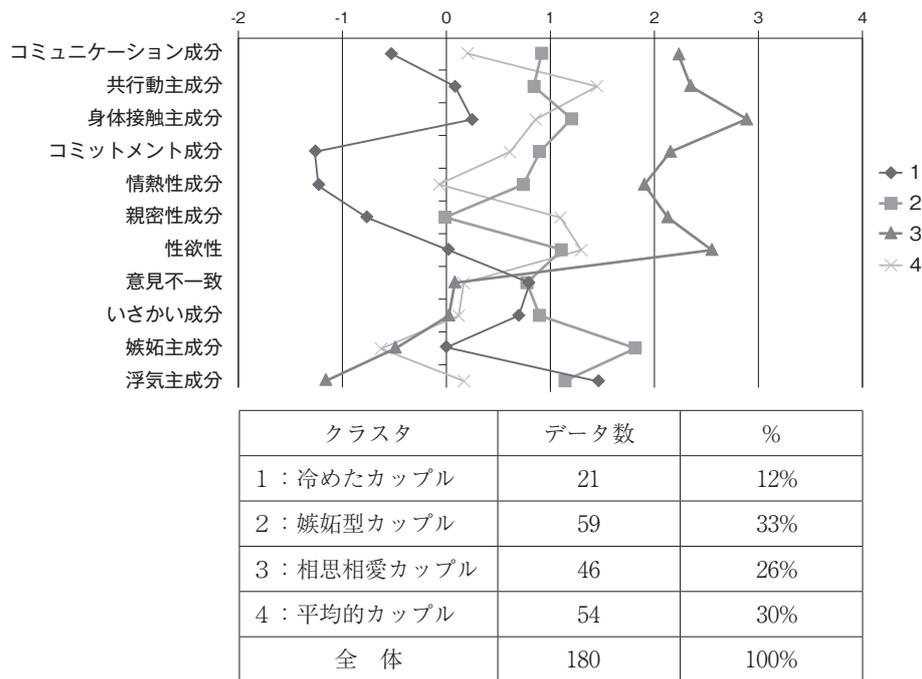


Fig. 3 性的恋人関係（男性）

Fig. 3 は、男性の性的恋人カップルのクラスタ分析結果である。最も多いのは、クラスタ2の「嫉妬型カップル」と名付けた群で33%を占める。嫉妬得点が最も高く、身体接触と性欲性だけで相手と結びついているようである。浮気傾向もあり、親密性が低いので、相手の女性にとっては幸せではない関係だと思われる。相手に嫉妬するのに、自らも浮気傾向があるので男性の利己的恋愛パターンと思われる。

クラスタ4の「平均的カップル」は、全体の30%である。共行動と性欲性が高いという特徴があり、コミュニケーションと情熱性が低いことから判断して、性的な関係で結びついている「セフレ：セックスフレンド」のような関係である。意見不一致、いさかい、嫉妬は低いので関係は陰悪ではないようである。

クラスタ3は、「相思相愛カップル」と名付けた。全体の26%を占める。身体接触と性欲性が極めて高いが特徴である。コミュニケーション、共行動、コミットメント、情熱性、親密性も4クラスタ中、最も高い。嫉妬、浮気は低いので、安定的な相思相愛関係である。

クラスタ1は、最も少ない「冷めたカップル」と名付けたグループで全体の12%を占める。コミュニケーション、コミットメント、情熱性も最低である。浮気傾向だけが高いので、関係が壊れる可能性が大である。

(4) 性的恋人カップル（女性）のクラスタ分析

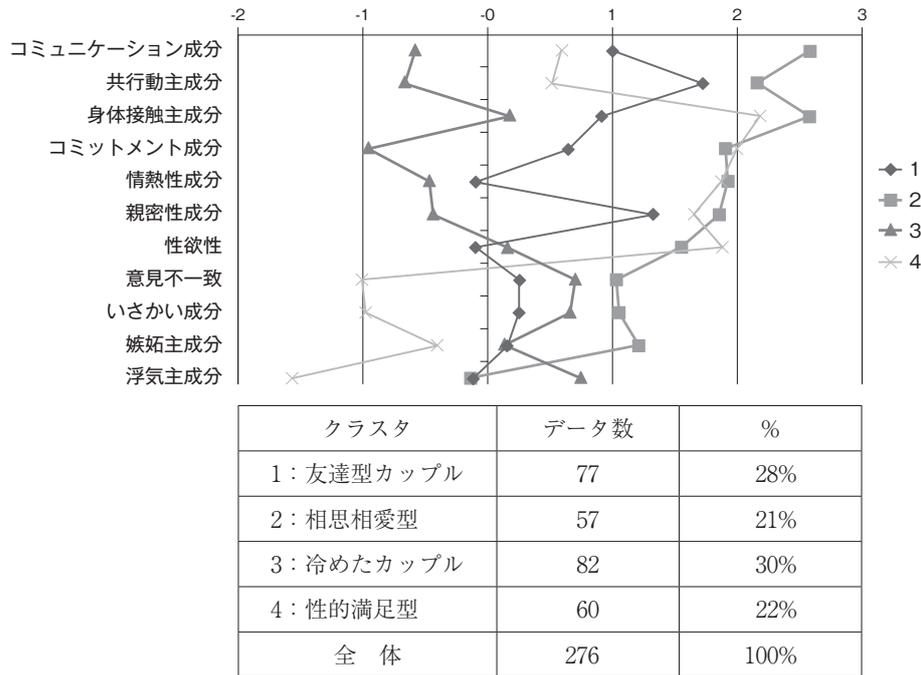


Fig. 4 性的恋人関係（女性）

Fig. 4 は、女性データの「性的恋人カップル」のクラスタ分析の結果である。

クラスタ3の「冷めたカップル」と名付けたグループが最も多く、全体の30%を占める。コミュニケーション、共行動、コミットメント、情熱性、親密性も低いが、身体接触と性欲性だけが高いので、性的な関係のみで結びついている。意見不一致、いさかひが多く、浮気傾向も高いセフレ関係である。

次に多いのが、クラスタ1の「友達型カップル」である。共行動と親密性のみが高く、情熱性、性欲性および意見不一致、いさかひは平均的レベルである。

クラスタ4は、「性的満足型」で、22%を占める。身体接触と性欲性が高く、情熱性、親密性も高い。ただ、コミュニケーション、共行動が平均的である。意見不一致、いさかひ、嫉妬、浮気が最も少ないので、安定したカップルであると言えよう。

クラスタ2は、「相思相愛型」で、21%を占める。コミュニケーション、共行動と身体接触が最も高く、コミットメント、情熱性、親密性、性欲性が高いので、相思相愛のカップルである。しかし、意見不一致、いさかひ、嫉妬は平均より大きい、浮気は平均的である。コミュニケーション、共行動が増えると、意見不一致、いさかひは避けられないようである。クラスタ4の「性的満足型」がコミュニケーション、共行動が少ないので、意見不一致、いさかひが少ないのと対照的である。

(5) 結婚カップル（男性）のクラスタ分析

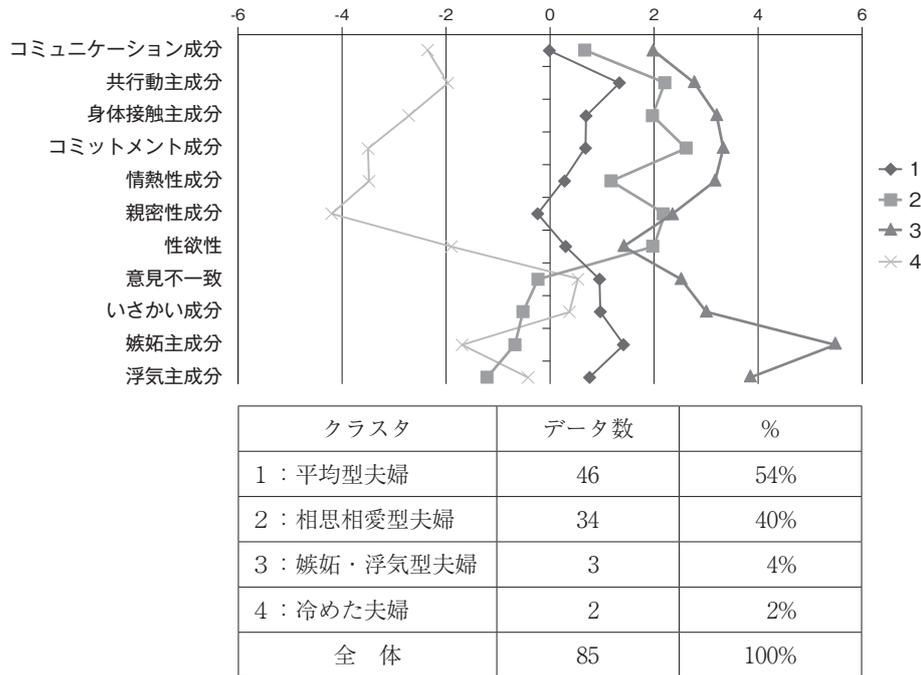


Fig. 5 結婚関係（男性）

Fig. 5 に男性の結婚関係カップルのクラスタ分析の結果を示す。

最も多いのがクラスタ1の「平均型夫婦」で、全体の54%を占める。コミュニケーション、情熱性、親密性、性欲性は平均的で、夫婦であるから多いのは共行動である。共行動が多いが、意見不一致、いさかいは多い。嫉妬、浮気も平均より少し高い。この「平均型夫婦」は「仲がよいが喧嘩もするタイプ」である。

クラスタ2は、「相思相愛型夫婦」と名付けたもので、40%を占める。平均型に比べて、交流内容（コミュニケーション、共行動、身体接触）も、情熱性、親密性、性欲性はかなり高い。それに対して、ネガティブな交流内容である意見不一致、いさかひ、嫉妬、浮気が低いので、極めて仲の良い幸せカップルと言えよう。

クラスタ3は、「嫉妬・浮気型夫婦」と名付けたが、4%と非常に少ない。この夫婦カップルは、「相思相愛型夫婦」以上にコミュニケーション、共行動、身体接触、情熱性、親密性が4クラスタ中、最も高い。

嫉妬心、浮気傾向も異常に高いので、意見不一致、いさかひも高い。

「仲が良すぎて喧嘩する」夫婦タイプである。

クラスタ4は、2%と最も少なく、「冷めた夫婦」である。

コミュニケーション、共行動、身体接触はほとんどなく、情熱性、親密性、性欲性が低く、意見不一致、いさかひは平均的である。嫉妬も浮気も少ないが、きわめて不幸な結婚カップルである。

男性側から見た結婚カップルは、およそ6割が夫婦喧嘩をし、4割が相思相愛型と言えよう。

(6) 結婚カップル（女性）のクラスタ分析

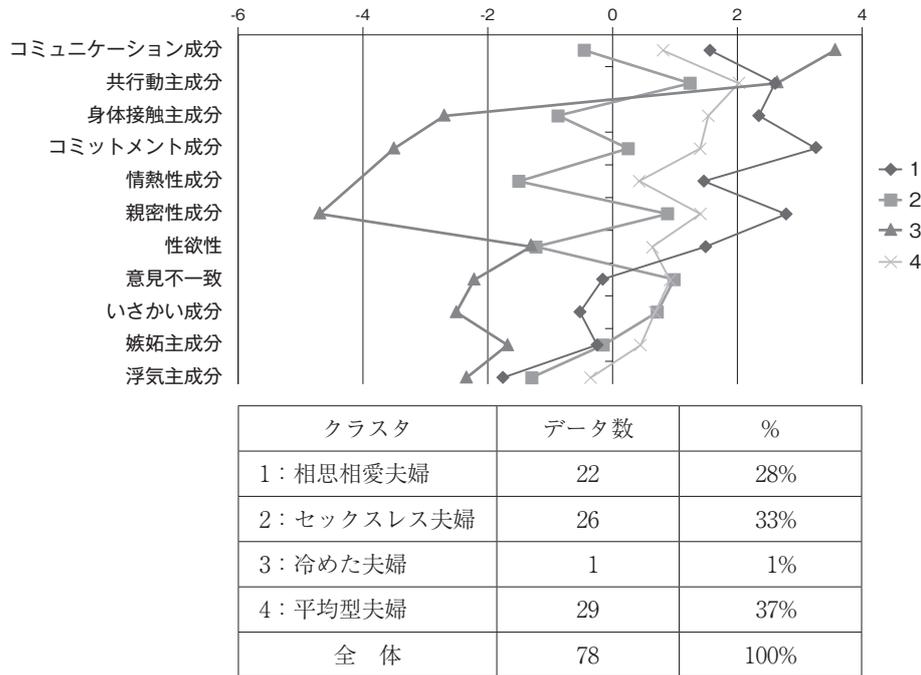


Fig. 6 結婚関係（女性）

Fig. 6 に女性の結婚カップルのクラスタ分析の結果を示す。

最も多いのがクラスタ4の「平均型夫婦」で37%である。共行動、身体接触、コミットメントが高い、親密性が情熱性、性欲性より高い。意見不一致、いさかいは、平均より多い。浮気は少ない。「仲がよいのに喧嘩する」タイプである。

次に多いのは、クラスタ2の「セックスレス夫婦」で33%である。平均より多いのは共行動、親密性であるが、身体接触、情熱性、性欲性が平均より低い。意見不一致、いさかいは平均より多い。嫉妬、浮気は少ない。

3番目に多いのは、クラスタ1の「相思相愛夫婦」で28%である。共行動、身体接触、コミットメントが高く、親密性は4クラスタで最も高い。意見不一致、いさかいは、嫉妬は平均より低く、浮気も極めて低い。理想的な仲のよい夫婦である。

最後はクラスタ3であるが、1%で例外的に少ないケースである。「冷めた夫婦」と名付けたが、コミュニケーションと共行動が多いのに、親密性が最低レベルである。意見不一致、いさかいはない。

以上で、関係内のタイプ比較を終わる。

## 男女間比較

### 精神的な恋人カップルでの男女比較

全般的に男性では、「性欲性」が高い。男性では、「冷めたカップル」以外のクラスタで性欲性は平均の0より上である。女性ではすべてのクラスタで性欲性は平均の0以下である。

男女とも、情熱性（恋心）が高まると嫉妬も浮気も低い。男性では嫉妬心も浮気心も高い。男性クラスタでは、「平均カップル」（58%）と「嫉妬型」（16%）で嫉妬心と浮気心が平均以上である。男性に「嫉妬型」があり、女性に「浮気型」のクラスタがある。

一般的に言われる「男性が浮気をし、女性が嫉妬をする」という俗説は一概には言えない。

### 性的恋人カップルでの男女比較

男性では「冷めたカップル」以外は、性欲性がかなり平均0より高い。女性は「性的満足型」と「相思相愛型」で性欲性が高く、それにともない親密性も情熱性も高まる。しかし、性欲性、情熱性が低くても親密性の高い「友達型」が28%もある。男性には親密性だけが低い「友達型」というクラスタがない。女性は男性との友達関係に満足するが、男性は恋人関係に友達関係だけで満足できないようである。

女性では、「冷めたカップル」以外では、浮気心は極めて低い。

女性は性的関係ができるとう浮気心がなくなるということか。しかし、男性では、「嫉妬型」と「冷めたカップル」で浮気心が高い。しかし、男性でも「平均的カップル」と「相思相愛カップル」では浮気心は少なくなる。

男性では、「嫉妬型」のみ嫉妬心が高いが、他のクラスタでは嫉妬心は低い。女性は、「相思相愛型」で嫉妬心が高いが、他のクラスタでは嫉妬心は低い。

### 結婚カップルでの男女比較

男性では、「相思相愛型」と「平均型」ではほぼ二分されるが、女性では、「相思相愛型」、「平均型」と「セックスレス型」ではほぼ三分される。「セックスレス型」は、性欲性、情熱性、コミュニケーションが少ないことで特徴づけられる。

男性では、「平均型」(54%)と「嫉妬・浮気型」(4%)で浮気傾向が高い。女性では、すべてのクラスタで浮気傾向は極めて低い。

婚姻関係者での浮気は男性がほとんどということになる。

### 総合的考察：

本研究の目的は、男女の愛情関係におけるスタイルを各関係および男女別にクラスタ分析した。全般的に見ると男女の愛情関係はおおよそ、次の4つのパターンに分かれるようである。

- ①相思相愛のカップル：交流関係及び心理的魅力がポジティブで、争いごとが少ない理想的な男女カップル
- ②仲が良いのに喧嘩するカップル：交流関係及び心理的魅力がポジティブであるが、争いごとが多い男女カップル
- ③冷えているが関係が続いているカップル：交流関係及び心理的魅力がネガティブであるが、争いごとが少ない男女カップル
- ④別れが予感されるカップル：交流関係及び心理的魅力がネガティブで、争いごとが多い男女カップル

以上の4つのパターンで男女の各関係を見ていくと、

- ①の相思相愛カップルは、Fig. 1の精神的恋人関係（男性）における「相思相愛型」、Fig. 2の精神的恋人関係（女性）の「情熱的カップル」、Fig. 3の性的恋人関係（男性）における「相思相愛型」、Fig. 4の性的恋人関係（女性）における「性的満足型」Fig. 5およびFig. 6の結婚関係における「相思相愛夫婦」がそれにあたる。
- ②の仲が良いのに喧嘩するカップルは、Fig. 1 精神的恋人関係（男性）における「嫉妬型カップル」、Fig. 2 精神的恋人関係（女性）における「平均的カップル」、Fig. 3 性的恋人関係（男性）における「嫉妬型カップル」、Fig. 4 性的恋人関係（女性）における「相思相愛型」、Fig. 5の男性の「嫉妬浮気型夫婦」、Fig. 6の女性の「平均型」夫婦がそれにあたる。
- ③冷えているが関係が続いているカップルの例としては、Fig. 1の男性の精神的恋人関係における「冷めたカップル」、Fig. 2の女性の精神的恋人関係における「友達カップル」、Fig. 6の女性の結婚関係における「冷めた夫婦」がそれにあたる。
- ④別れが予感されるカップルとしては、Fig. 2の女性の精神的恋人関係における「浮気型カップル」、Fig. 3とFig. 4の男女の性的恋人関係における「冷めたカップル」、Fig. 5の男性の結婚関係における「冷めた夫婦」とがそれにあたる。

女性の精神的恋人関係および性的恋人関係では、コミュニケーションと共行動が多いと、それに伴って意見不一致やいさかが多くなり、コミュニケーションと共行動がそれ程多くない方が、意見不一致やいさかが少ないようである。これは典型的な「やまあらしのジレンマ」現象で、もともと意見や態度の異なる男女が結びついた場合、コミュニケーションや共行動が多くなれば、当然、意見不一致や喧嘩が起きることは納得ができる。しかし、態度や意見が一致するようなカップルであれば、コミュニケーションや共行動により親密性が増し、相思相愛のカップルになるのではないかと思われる。

それでは、意見や態度の異なるカップルがなぜ、結びついているのかと考えると、恋人関係なら相手の外見的魅力や性的満足感が二人を結びつけているであろうし、結婚したカップルならば、結婚という関係を解消しにくい社会的コミットメント、子供や家族の存在などが関係解消を難しくしているのであろう。そうなると男女の仲が悪くとも、どうにか関係を維持するには、折り合いや妥協をしてゆくしかないのであろうと思われる。

しかし、男女関係の理想的なスタイルは、「相思相愛型」であり、相手へ相互の愛がコミットメントの深まりとともに増加していくことは、男性の精神的恋人関係→性的恋人関係→結婚関係においては、「相思相愛型」が、20%→26%→40%と確実に増加していることを見ても明らかである。女性においても「相思相愛型」は、性的恋人関係→結婚関係においては、21%→28%と増加している。

## 引用文献

- 金政祐司・大坊郁夫 2003 愛情の三角理論における3つの要素と親密な異性関係 感情心理学研究, 10, 11-24.
- 川名好裕・齊藤勇 2009 恋愛の進展段階 日本社会心理学会 第50回大会 112.
- 川名好裕・齊藤勇 2010 恋愛の進展段階(2) 日本社会心理学会 第51回大会 74.
- 川名好裕 2014 男女関係の進展による交流内容の変化 立正大学心理学研究年報 第5号, 11-25.
- 川名好裕 2016 男女関係の進展による心理的魅力要因の変化 立正大学心理学研究所紀要14号, 3-12.
- 川名好裕 2017 男女の愛情関係: 交流内容と心理的魅力との関係 立正大学心理学研究年報 第8号, 1-13.
- 松井豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64(5), 335-342.
- 松井豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会 第41回大会発表論文集, 92-93.
- Sternberg, R. J. 1986 "A triangular theory of love," *Psychological Review*, Vol. 93, No. 2.119-135.